

令和3年度 長崎市自然環境調査報告書：植物

長崎市自然環境調査委員 中西 弘樹

1 長崎市から初めて発見された植物

◎アイノコホシダ(ヒメシダ科)(図1)

この仲間は県内にはホシダ、イヌケホシダと南方系で五島と長崎市に記録されています。ケホシダの3種類がありますが、この中で根茎がはうのはホシダのみで、群生する特徴があります。アイノコホシダはホシダとケホシダの雑種で、ホシダに比べて葉は柔らかく、細かい毛が多いのですが、ケホシダよりも毛は短いです。根茎がはう特徴があり、3m×1mぐらいの範囲に群生していました。県内では初めての発見です。



図1. 群生するアイノコホシダ

◎ヒナザサ(イネ科)(図2)

県内ではこれまで西海市の湿地にまれに生育していることが知られていましたが、長崎市北部の湿地に生育していることが発見されました。植物体は小さく、茎は下部がはい、節から枝を出して群生します。高さは15cmほどで、それぞれの枝先に長さ1.5~3cmの円錐花序を出します。他に似た植物はなく、すぐに本種とわかります。日本の固有種で珍しい植物と言えます。



図2. 湿地に生育するヒナザサ

◎カゴメラン(ラン科)(図3)

照葉樹林の林床に生育する亜熱帯性の小型のランで、台湾から琉球列島、種子島、屋久島、黒島、甌島から離れて壱岐まで分布することが知られていましたが、その間に位置する長崎市からも1株発見されました。和名の籠目ランは文字通り、葉にカゴの目のような斑が入ることに因みつけられたもので、マニアに盗掘される恐れのあるランであります。繁殖は悪く、琉球列島を除くと個体数は限られています。採集は条例で禁止されています。



図3 林床に生育するカゴメラン

◎ソナレノギク(キク科)(図 4)

露岩地や乾燥した土地に生育し、薄紫色の花を咲かせるアレノギクが各地に見られますが、アレノギクは茎にも葉の両面にも粗い毛が生えています。しかし、海岸に生育するものは毛がほとんどなくソナレノギクとして四国南西部に知られていましたが、最近刊行された図鑑には、宮崎県や長崎県野母崎にも似たものが見られると記されています(門田ほか 2017)。今回それに相当するものを発見し、本変種と同定できました。これまで小江町や三重田町の海岸で見たことがあるアレノギクを再度調べてみましたが、ソナレノギクではありませんでした。



図 4. ソナレノギク

◎ハグロソウ(キツネノマゴ科)

山地の林縁部や木陰に生育する多年草で、長崎県内では雲仙山系、多良山系に見られます。かつては、諫早市城山にも生育しているのを見たことがありますが、今はなくなったようです。長崎市深堀町の林中にも発見することができました。多年草ですが、常緑性かどうか図鑑にも記されておらず、確認したことがありませんが、12月初旬でも葉が緑色をしていました。花は9月ごろに咲きますので、確認したいと考えています。

2 再発見された植物

◎カゲロウラン(ラン科)(図 5)

県内各地に分布し、照葉樹林の林床に生育していますが、産地は少なくまれです。これまで市内にも記録されていましたが、現状不明でありました。今年度、市内北部の山地の林床に1株生育しているのが発見されました。しかし、近くまで伐採が進んでおり、今後心配です。茎の下部はほふくしますが、上部は直立し、卵状長楕円形で濃緑色の葉を数枚つけます。秋に先端に花序を伸ばし、10~20個の小さい花を咲かせます。



図 5. 林床に生育するカゲロウラン

◎ムカゴソウ(ラン科)(図 6)

草原や林縁の草地に生育するランですが、緑色の小さな花を咲かせ多くのイネ科植物の群生している中では目立ちません。草地の管理がされなくなり絶滅した生育地もあります。市内でも記録はありますが、最近は見られなくなり現状は不明の状態でした。市内の山地の頂上付近で3株発見することができました。花は7月上旬に咲かせます。



図 6. 草原に生育するムカゴソウ

◎ウンゼンカンアオイ(ウマノスズクサ科)(図7)

長崎県を中心に九州西部、すなわち福岡県西部、佐賀県、熊本県西部に分布しています。長崎県では本土側と五島列島、平戸島に見られますが、西彼杵半島に生育していることは知られてきませんでした。最近の調査によって西海市の1カ所と長崎市北部の1カ所に生育していることが確認されました。長崎市と西海市にはアケボノアオイが広く分布しています。両種では葉の形も少し異なっていますが、花が咲いていないとはっきりと同定できません。この仲間は種子が根元に落ち、アリによって散布されますが、広がる速度は極めて遅いのが特徴です。ウンゼンカンアオイも花の形態に変異があり、地域によって少し異なるので、DNA解析による再検討が必要であると考えられます。



図7. 長崎市内のウンゼンカンアオイ

3 長崎市から新しく発見された外来植物

◎ヨーロッパヒメハギ(ヒメハギ科)(図8)

ヨーロッパからトルコにかけて広く分布しているヒメハギ科の多年草で、南北アメリカ、オーストラリアにも帰化していることが知られています。これが数年前より日本で唯一長崎市新牧野町に野生化していることが観察されていました。今年も生育していることがわかり、完全に帰化していることがわかり、ヨーロッパヒメハギとして学会誌に発表しました(中西ほか2021)。



図8. ヨーロッパヒメハギ

4 発見された貴重植物

◎ヘゴ(ヘゴ科)

五島市福江島では古くから知られていましたが、本土側でもこれまで長崎市で2カ所知られていましたし、その後西海市でも発見されました。長崎市内の1カ所竿の浦町に生育していた3株が砂防工事によって生育地が乾燥化し、枯死してしまいました。しかし、今年新たに野母半島先端部で発見することができました。温暖化で分布が拡大していると考えられますが、五島ではシカの食害によって林内が乾燥化し、他の南方系のシダに比べて繁殖していないようです。

◎ウスバイシカグマ(コバノイシカグマ科)

ふつつ種であるイシカグマに似ていますが、葉は大きく3回羽状複葉となり、下方の羽片の幅が広く、5cm以上になります。また葉脈の先端も鋸歯の先端まで達していません。西海町の谷沿いで発見することができました。佐世保市や諫早市で発見されていますが、調査はまだ十分ではありません。

◎カンラン(ラン科)

広く分布していますが、古くから盗掘の対象になり、ほとんど見られなくなりました。長崎県では「長崎県未来につながる環境を守り育てる条例」によって採集や損傷は禁止されています。長崎

市北部で新たな生育地を発見することができました。最近はイノシシの掘り起こしによって枯れてしまった個体もいくつかあり、野生のもので開花を見ることはほとんどなくなってしまいました。

◎コギシギシ(タデ科)

市内では高浜町の海岸に生育しているのが観察されていました。新たに野母町の砂浜の漂着ゴミが堆積した場所に生育しているのを発見することができました。海流散布する可能性があります。

◎ギョクシンカ(アカネ科)

これまで野母町、香焼町に知られていましたが、深堀町から大籠町の城山に比較的多く生育しているのを発見することができました。亜熱帯性の植物で、九州では西廻りに長崎県壱岐まで分布しています。

◎ケチドメ(セリ科)

琉球列島から九州南部、天草を経て、長崎県に分布し、九州西廻りの分布植物と言えます。チドメグサに似ていますが、葉柄に下向きの白い縮毛があることで区別できます。長崎県では五島福江島、長崎市、佐世保市から報告されていますが、まだ十分調査されていません。

◎ヨロイグサ(セリ科)

山地の林縁部に生育する大型の草本で、県内では佐世保市、長崎市、諫早市、東彼杵町などに知られていましたが、まれです。長崎市では本河内町に10株生育しているのを発見することができました。大きなものは高さ4mにもなります。

5 引用文献

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司 2017. キク科

ASTERACEAE(COMPOSITAE).大橋広芳・門田裕一・木原 浩・巴田 仁・米倉浩司編 日本の野生植物 5. pp.198-369. 平凡社, 東京.

中西弘樹・門田裕一・千々布義朗 2021. ヒメハギ科の日本新産帰化植物、ヨーリツパヒメハギ(新称). 植物地理・分類研究 69: 99-101. .